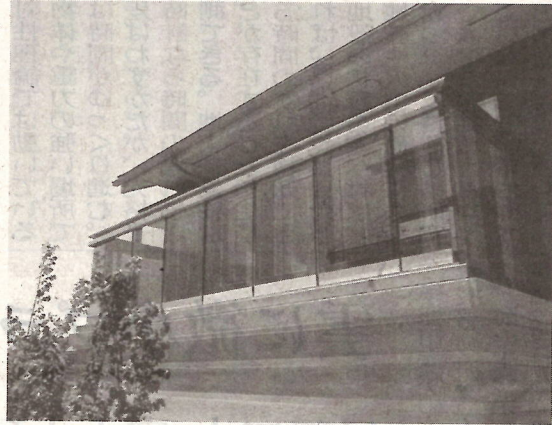


# パナソニックHD

## 「発電するガラス」参入

### 高効率の太陽電池、塗布



建材用のガラスと一体となったペロブスカイト型太陽電池の実証実験を始めた（神奈川県藤沢市）

パナソニックホールディングス（HD）は31日、次世代太陽電池の本命とされる「ペロブスカイト型太陽電池」事業に2028年までに参入すると発表した。自社開発した発電効率が世界2位のペ

ロブスカイト型太陽電池と、住宅の建材を組み合わせた「発電するガラス」としての用途を開拓する。将来は数百億円の仕事に育成を目指す。神奈川県藤沢市で31日、モデルハウスのバル

コニー側面部のガラスにペロブスカイト型太陽電池を組み込む実証実験を始めた。14年に同電池の開発を始めたパナソニックHDは、800平方メートル以上の実用サイズでの発電効率が17・9%と、

7月に中国の極電光能（18・6%）に抜かれるまで世界首位だった。開発担当者は「世界最高の発電効率をアピールしていきたい。オフィスの窓や商店街のアーケードの天窓など、世の中のガラスが使われているところならば、全てが市場になり得る」と話す。

ペロブスカイト型太陽電池はフィルム状に成形する「曲がる太陽電池」として知られるが、パナソニックHDはインクジェットプリンターの応用で電池をガラス表面に均一に塗る技術に強みをもつ。厚さ1ミクロン（100万分の1）以下、太陽電池の層を2枚のガラスに挟んで利用する。黒色に近いペロブスカイト型太陽電池をガラス

に貼ると、室内から外の景色が見えづらくなるほか、採光機能も損なわれる。このためパナソニックHDは実証実験で電池とガラスが横じま模様になるよう設置し、ガラス面の半分程度には無色透明のスペースを残す。

無色部分の割合は設置場所などに応じて柔軟に変える。ガラスに発電能力を持たせつつ、窓としても使えるようにする。

グループの住宅設備会社などと連携して建材として販売するか、建材メーカーから太陽電池の塗布を受託するかなど、具体的なビジネスモデルは今後検討する。実用化までにペロブスカイト型太陽電池の課題とされる耐久性の向上にも取り組む。

グループの住宅設備会社などと連携して建材として販売するか、建材メーカーから太陽電池の塗布を受託するかなど、具体的なビジネスモデルは今後検討する。実用化までにペロブスカイト型太陽電池の課題とされる耐久性の向上にも取り組む。

1.9.3.1